

どっこい生きてます!



2021
8

条件反射制御法(CRCT)の関係文献や研修資料などを示す潮騒JTCの仲間たち、
コロナ禍にあって同研修はオンライン形式で行われている。

巻頭言

MESSAGE
from YUTAKA

メッセージフロムゆたか

逆境はやり方次第で
プラスに転じる

毎年のことながら晩夏のこの時期になると、「ああ、今年も何とか無事に夏を越せそうだなあ」という安堵の思いが私の胸に去来します。人間、年齢を重ねて老いれば、身体も精神機能もだんだんと衰えて、どこかしらおかしくなっていくのは自然の流れです。でも、地方の一民間施設とはいえ、いつの間にか大勢の入寮者を抱えるまでに成長した潮騒 JTC だけに、老いたとはいえ総責任者の私が倒れたりしたら、その影響は施設内のあちこちに及びます。なので、つい老いの自覚を忘れて行動してしまう自分を、少しだけ反省する場面が増えました。そうは言っても、私は行動することで自分の心身の健康バランスを保っている面があると考えているので、我が身の老いと折り合いは難しいところです。まあ、人並みには自分の体をいたわり、あちこちオーバーホールしたりと、心身のケアに気を付けています。

ふと考えるのですが、私の病気であるアルコール依存はともかく、もう一つの覚醒剤依存の方はダイレクトに腕に注射する昔からのやり方だったので、今の若い薬物依存者たちが好む“あぶり”スタイルに比べ、結果的に脳に及ぼすダイレクトなダメージが弱かったのではないかと勝手に考えたりもしています。「注射の方が害は少ないのでは…」というへ理屈で約40年に及んだ覚醒剤依存人生が免罪できるわけではありませんから、そう考えてしまう思考回路そのものが狂っているのかもしれませんが。世間の常識からするなら一番感謝しなければならないのは、この年まで生きられるような、健康で丈夫な体に産んでくれた、亡き母親への感謝です。かつては周囲の不幸などお

かまいなしに太く短く、破滅的な人生を突っ走って来た私ですが、老いへの自覚が深まるに従って何者か(=ハイパーパワー?)に「生かされている」という境地に至り、命を大事にして「もう少し頑張っ生きてよう」「死ぬまで仲間のために働こう」というエネルギーが湧いてくるから不思議です。

とはいえ今年の夏は昨年にも増して特別な意味合いを持ち、記憶に残る夏となりました。「どこまで続くぬかるみぞ」ではありませんが、コロナ禍パンデミックの猛威は少しも弱まる気配がなく第5波となり、夏を越しても収束の兆しは見えません。本来なら落ち込んだ気分を変え、景気浮揚の起爆剤として期待されるはずだった東京五輪・パラリンピックも、私には肩透かしを食らったような印象が強く、世界のアスリートたちの活躍とは別に「何のためにやったのだろう?」という疑問が今なお消えません。費用対効果ではありませんが、あれだけの巨費を投じながら、実りあるものにならなかった、できなかった責任を一体誰がどう取るのだろう、などと今後の日本経済への影響を心配してしまいます。でも、そうした国の動向を横目に、コロナ禍対策に明け暮れながらも施設の日常は何とか回っています。小さなことですが、仲間たちは閉じられた施設空間の中でもアイデアを出し合って、日常を楽しむ工夫を重ねています。私も過去に7度、約20年にも及んだ塙の中での暮らしの中で、幸運にも俳句作りの面白さに目覚め、これが回復の大きな下支えになりました。逆境は、やり方次第でプラスに転じることができることを信じています。

(法人理事長 栗原 豊)



潮騒合葬墓に仲間の遺骨4柱を納骨 盆供養を通して仲間の死を考える

潮騒JTCでは今年もお盆期間(旧暦)の8月13日、菩提寺となっている鹿嶋市志崎の高野山真言宗「鹿嶋山地蔵院」で、昨年夏頃からの1年間に亡くなった仲間たちの霊を供養する盂蘭盆会(うらぼんえ)法要を営みました。コロナ禍で参加人数は限られましたが、導師による本堂でのお盆供養に続き、隣接の共同墓地内にある潮騒JTC合葬墓において遺骨4柱の納骨法要も行われました。「仲間は家族だ!」(栗原豊センター長)の考えを反映させた潮騒独自の慰霊スタイルで、この1年間に物故した仲間たちの魂の安寧を祈りました。

よく知れているように盂蘭盆会(お盆)は仏教の行事で、先祖の精霊を迎えて供養する期間のことを言います。お盆の時期には先祖が浄土から地上に戻ってくると考えられており、旧暦だと8月13日～16日が一般的です。新盆見舞いなどで、お盆休みをとるケースが多いようです。新盆ともなれば、普段のお盆よりも盛大に供養を行うため、親類や親しかった知人を呼んで法会を行ったり、寺に行き法要を執り行う場合もあります。

潮騒JTCではここ数年、家族と疎遠になった高齢の入寮者が増えて、すっかり施設が仲間たちの「終の棲家」となりました。かつての荒れた生活から様々な持病や精神を含む複合的な障害を持つ入寮者が多く、他の福祉施設よりも死が身近になり、葬式の件数も多いのが現状です。潮騒JTCの葬儀は形式

よりも実を重んじ、仲間が参列して亡き当事者の思い出をリレー式で語り合う独自の「お別れ会」です。しかし、茶毘に伏された遺骨は家族が引き取り手とはならないケースが多く、一時的に施設内に安置され、お盆期間に合同供養と合葬墓への納骨が行われています。

入寮者は仏教に限らず、多様な宗教と信仰を持っていますから、懐の広い合葬墓や合祀墓(ごうしぼ)が必要でした。今では希望があれば仲間の家族の遺骨も納骨・永代供養されています。こうして潮騒JTCでは、死後も「仲間は家族だ!」として来世でも一緒にミーティングができるようにと配慮して、無縁仏として孤立する悲運から脱する流れを自力で整えました。

栗原豊センター長は「依存症の仲間たちは、最後まで自分を変えることが難しいまま亡くなるケースがほとんどです。でも、その生き様や苦悩の経験は他の入寮者仲間にも共通しており、文字通り反面教師として“命を賭しての死”なのです。命は落としても魂はリレーされていくわけで、逆説的ながらも生きている仲間への命の重さのメッセージとなっています。仲間が死ぬことは悲しいけれど、亡くなった仲間たちはみんな“終の棲家”としての潮騒JTCが必要不可欠な存在でした。潮騒に繋がったことで救われた部分も多かったと思います」としみじみと語ってくれました。

こんな僕でも「どっこい生きてます！」 統合失調症でも 回復を信じて生きる

ナルポー回復記



入寮者のナルポー、29歳です。潮騒JTCに来て、はや2年目が過ぎました。回復記を書くにはまだ早いかなどという思いもありますが、多様な病気や複合依存、重複障害などを持つ仲間が集い合う潮騒JTCだけに、今回オフアールを受け、僕のつたない体験も何らかの参考になるかな、と考えました。思えば、僕の入寮はのっけからトラブル続きの船出でした…。



僕が統合失調症を発症したのは19歳の時でしたが、初めて潮騒JTCにやって来たときは、統合失調症の薬を飲んでいない状態だったので、自分自身のテンションがすごく高く、全然落ち着きませんでした。

入寮の手続きをするため潮騒アディクションビレッジ会館4階の事務所向かうと、職員さんが温かく迎えてくれました。そして栗原センター長と握手をしたのですが、この時のセンター長の手がすごく温かく感じたのを憶えています。僕が挨拶すると、センター長が「よく来てくれたなあ」と言ってくれて、すごくうれしかった。

うかつな話ですが、潮騒JTCが当時の僕にはどんなところなのか全く分かりませんでした。一通り挨拶が終わると、職員さんが新しく生活する「神野寮」というナイトケア施設に送ってくれました。その夜、処方薬を飲んでいなかった僕は、懸念された「奇行」に出てしまい、食べないのにカップラーメンにお湯を入れたり、独りダンスをしたり、飲まない炭酸飲料水の缶をほとんど開けてしまったり、夜中も落ち着かなくて、ずっと寝ないで起きていました。

そして朝を迎えて、職員さんが迎えに来て、デイケアに向かうことになりました。デイケアに着くと、まず応接室に向かいました。午前9時くらいまで応接室にいて、そこで上半身裸になったりしていました。センター長が部屋に入ってきた時には食ってかかり、職員さんが止めに入りました。

様子がおかしいと感じた職員さんは病院で診てもら

おうと判断し、僕を病院に連れて行くことになりました。必死に受診できる精神科病院を探してくれましたが、なかなか病院が見つかりません。その日の夕方まで、あちこち病院を探してくれた職員さんには、今も頭が上がりません。なんとか病院が見つかり、症状が悪化していた僕はすぐに入院することになりました。

「せっかく入寮したのだから 復帰してみたら…」

病院に着くと、抵抗していたせいか僕はすぐに手足を拘束され、それが2週間も続きました。でも、その後は入院生活も順調に進み、2か月半で退院することができました。入院中も職員さんが面会に来てくれて、そこで初めて潮騒JTCが回復施設だと知らされ、どういうところで、どんな人が利用しているのか教えてくれました。

遅まきながらやっと施設の概要を理解できたものの、その時の僕は正直、もう潮騒JTCに戻りたくないと思っていました。なぜなら、今までは入院してもすぐに仕事をしていたので、自分のゆがんだプライドが潮騒JTCに戻ることを許せなかったからです。その複雑な気持ちを分かってくれたのは、看護師の人と入院先の仲間でした。退院の日が近づくのを楽しんでいたら、担当のケースワーカーの人と看護師の人と話をすることが設けられました。そこで「君の気持ちは分かるけれど、せっかく入寮できたのだから潮騒に復帰してみたら…」と助言され、潮騒JTCに戻ることを決めました。

退院当日、期待と不安を胸に病院を後にすることになりました。帰りの昼食で、ハンバーガーを食べたとき、すごくおいしく感じたのは今も忘れられません。

潮騒JTCに戻り、デイケアの3階に行ったら、あまりの人数にびっくりしました。麻雀をやっている人、テレビを観ている人、本を読んでいる人、いろいろな人がいて圧倒されました。

右も左も分からない僕は、ただ座ることしかできませんでした。そして帰る時間になり、新しく生活する場所を聞かされました。車内では僕の好きなアーティストの音楽が流れていて、すごく気持ちよく車に乗ることができました。

デイケアを出て1時間近く車に乗って着いた先は、「玉造寮」という場所でした。着いたはいいけれど、何をしたらいいか分からない僕は、まず部屋を案内されました。そこで同じ部屋になった仲間と少しだけ話をして、風呂に入って、テレビを観たり、煙草を吸ったりして1日目が終わりました。

僕は集団生活には慣れていたので、ルールだけは守るようにしていました。なぜ集団生活が慣れているのかというと、幼い頃から僕は養護施設で生活していたので、すぐに寮生活にも慣れることができたのです。

ミーティングに参加し 変わっていく自分に気づく

玉造寮で生活を始めて、次の日からデイケアに行くことになりましたが、すごく気持ちが不安定になり、行きたくありませんでした。そしてデイケアに着いて、そこで朝食をする人がいたりもしました。みんながデイケアにそろろうのが9時過ぎで、そこからデイの掃除をしてオープニングをし、それぞれのミーティング場所で午前中は自助活動の要であるミーティング(グループセラピー)をすることになりました。

僕は同じ建物の4階でミーティングをすることになり、すごく緊張しました。4階でミーティングをする人は薬物依存症の人達が集まる場所だったからです。潮騒JTCでは初めての人も4階でミーティングをするのが決まりとなっており、当時は初めての人が僕しかいなくて、何を話せばいいのか分かりませんでした。

そんなこんなでデイケアに通い始めてあっという間に1カ月が過ぎたころ、まともな気持ち的に落ち込んでしまい、ホームシックになりました。毎日同じことの繰り返しで、僕の病気は良くなるのだろうか…、こんなことで本当に地元に戻ることができるのか…、すごく不安になりました。それでも、毎日のミーティングには参加していました。

そんなとき、思い切ってデイケアの仲間や寮の仲間自分の帰りたい気持ちを正直に話して、相談することにしました。その時はいろいろな自分の気持ちを素直に吐き出すことができました。

仲間の一人にミーティングの在り方を話してもらった

時に、彼が「ミーティングは耳から回復して話をするんだよ」と言ってくれました。その言葉は自分にとっては衝撃的でした。次の日のミーティングから、そのことを意識することにしました。一日一日、テーマは違いますが、だんだん変わっていく自分に気づくようになりました。

役割を得て自分が変わり 日記を書くように

玉造寮で生活を始めて3カ月くらい経った頃、同じ寮の仲間「弁当の仕分けの役割をやってみないか?」と言われました。その時、初めて役割を与えられるくらい回復できたのかなと、少しだけ自分に自信が持てるようになり、弁当の手伝いをするようになりました。

こうして毎日、手伝いをするうちに楽しみも増えていき、やりがいを感じるが多くなり、少しだけ楽しくなってきました。デイケアにいる時間も少しずつ、つらさから楽しみに変わっていました。玉造寮でも特に問題はなく、毎日が過ぎていきました。ちょうどその頃、自分の中で日記を書くことに挑戦し始めました。

きっかけは、毎日、学ぶことや自分なりに感じたことを形にしたかったからです。なんでもいいから日記に書くことで、思い出になり、プログラムにある欄卸をすることで回復することにつながると思ったからです。日記は今も続けています。

そして玉造寮にも慣れ、半年が経った時に、ここの寮長が変わりました。寮長も変わり、新しく生まれ変わった玉造寮も悪くはなかったけれど、寮長が変わって2カ月くらいの時間が過ぎ、今度は自分が「ナイト異動」をすることになりました。一人で移動するのと思ったら玉造寮で一緒に仲間と異動とのことでした。迷いはなく、その仲間と異動することになりました。

異動した寮は「小山寮」というナイトケア施設でした。小山寮は年配の人や体の不自由な人が集まるナイトでした。小山寮に異動したのは冬でした。異動して一週間もしないうちに仲間が亡くなってしまい、すごくショックでした。その仲間とは関わりがなかったけれど、なぜか悲しい気持ちになりました。

小山寮に異動してからも色々な役割を与えてもらうことができました。サポーター見習いをやらせてもらって、サポーター補佐になったり、どんどん役割をもらうことが多くなりました。まだまだ道は険しいけれど、これからも回復に向けてチャレンジ精神を忘れずに頑張りたいです。(了)

受刑者からの手紙

刑務所の中で親族が亡くなるのはとてもつらい

残暑お見舞い申し上げます。コロナと熱中症で大変な中、栗原センター長におかれましてはいかがお過ごしでしょうか。自分の方ですが、以前に書いたように、職員1人が新型コロナウイルスになり、工場が一週間の間舎房生活になったこともあって部屋で安全教育をしたり、図書を読んだりしての日々でした。さすがに熱中症予防から外での運動ではありませんが、ここでの夏は暑いです。部屋の中に扇風機、外にはクーラーが入っていて涼しいのですが、工場の中には扇風機しかなく参っています。

ところで自分が刑務所の中にいる時に親族が亡くなるのは、とてもつらいです。これほどの親不

孝はないと思います。本当に申し訳ない気持ちでいっぱいです。親孝行しようと思っても、父はいないので寂しい限りです。後は母だけでも親孝行しようと思っています。それには自分が薬物・アルコール依存にならぬように導入プログラムをしっかりとやり、一日一日を大切に潮騒ジョブの仲間に参加させてもらい、社会復帰をしようと思っています。シゲさん、いつもお手紙と潮騒通信送ってくれてありがとうと栗原センター長にお伝えください。今日のところはここあたりで失礼します。残暑も熱中症に十分お気をつけてお過ごしください。

(山梨県 Aさん)

実家ではなく、薬物依存回復施設を進められた

お手紙ありがとうございます。実は先頃、刑務所内にて配役に向けての分類審査会議がありました。そこで“お偉いさん”方に今後のことを聞かれた際に、実家ではなく薬物依存回復施設を進められました。私としては親を身元引受人にし、出所後一度S市の実家に戻り、その後すぐに潮騒ジョブに行こうと思っていたのですが、この“親父”さんに、「潮騒の方がいいのでは…」みたいな話をされたので、今後職員と話した上で潮騒ジョブの方を身元引き受け人にし直そうと思っています。改めてよろしくお願ひします。それと潮騒通信「どっこい生きてます」を毎月読みたいので、送ってもらえると嬉しいです。事務的な内容ですいません。今日はここまでとします。(神奈川県 Hさん)

猛暑のせいか入所して約5カ月で15キロも痩せた

シゲさん、お元気ですか？ 猛暑でご体調を崩されましてはいませんか。心配しております。すぐにご返事を頂けていたのに、前回のお手紙のご返事が頂けておりませんので、シゲさんの身に何かあったのではと心配しております。大丈夫でしょうか？ それと潮騒通信「どっこい生きてます」送って頂きまして本当にありがとうございます。まだ手元には届いていませんが、届きましたら大事に読ませて頂きます。私は当刑務所に入所して5カ月くらいになりますが、猛暑のせいもあって約15キロも痩せてしまいました。驚いています。まだ暑い日々が続くそうなのでまだ痩せるのか…という思いです。暮れ暮れもシゲさん、お身体にはご自愛を。

(秋田県 Sさん)

「受刑者の手紙」は本来は公開されることを前提としていない私信ですが、当事者の本音が書かれており、依存症回復の第1歩である「自分に正直になること」を示す手本です。プライバシーに配慮し、掲載させていただいています。

「家族の一員だ」と言ってくれたシゲさんありがとう

紆余曲折の末に「2020 東京オリンピック」が始まり、あっという間に(?)終わりました。コロナ禍パンデミックの中で、日本国民の気持ちの中にはそれぞれ複雑な想いがあったとは思いますが、ステージに立つアスリート達の心は純粹だったと思います。私も自国の選手に限らず、各国アスリート達の手汗握る戦いや演技を繰り広げるシーンや、力の限り自分の限界に挑むアスリートたちの姿には深い感動を覚え、時には涙したりもしました。

そんな中、潮騒の皆さん変わらずお過ごし

ようですが、何よりですね。潮騒通信もありがとうございます。「受刑者からの手紙」コーナーを読むと、私の他にもそちらの世話になろうとしている人がいるようですね。シゲさん文通大変ですね。私の受刑生活もあと何カ月かで終わりますが、薬物依存との戦いは生涯続きます。

「家族の一員だ」と言ってくれたシゲさんありがとうございます。栗原さんや仲間の信頼を得られるよう、日々精進を重ねて参りますので、ご指導のほどお願いします。

(山梨県 Iさん)

コロナ感染により約1か月間も舎房待機となった

栗原センター長をはじめアル中のシゲさん、そして潮騒の仲間の皆さん、元気でやっているでしょうか。毎月「潮騒通信」を送って頂き有難うございます。潮騒ジョブの施設や皆さん方の状況が手に取るように分かるので、心の励みになっています。社会では相変わらずコロナの勢いが止まらないようですが、「潮騒通信」によるとジョブでは一人の感染者も出ていないとのこと。今後も引き続きお気をつけください。

残念なことに当所では5月に複数の感染者が

出てしまい、約1か月間も舎房待機となりました。風呂も感染源になるということで、この間には2回しか入れず、地獄のような日々でした。塀の中は中で、とても大変なことになっています。早くコロナ禍が収束してくれることを願うばかりです。私の残刑はまだ一年半近くあり、まだまだ先ですが気を引き締めて頑張ります。

それではお身体ご自愛ください。「潮騒通信」楽しみにしています。

(神奈川県 Kさん)

溶接訓練を受けることが出来、無事合格できた

このあいだ分類から、潮騒が身元引き受け可との知らせを受けました。ありがとうございます。

私は溶接の訓練を受けることが出来、無事合格することができました。社会復帰をしたら

就職活動に役立てられたらいいなと思っています。この調子で薬のことを一切考えなくなる日があるようにそちらに行ったら頑張るつもりです。なのでよろしくお願いします。(茨城 Tさん)

しおさい俳壇

8月のお題 ほおずき

選者 桐本石見



特選句

叱られて
吹くほおずきの音高く

アベ

ホオズキを鳴らす音はピーかブーが多くあまり綺麗な音ではないが女子の口遊みで上手な子はピーと鳴らす。叱られて口答えの代りにホオズキを鳴らすのも可愛い。句の作者の父としての思い出の詠かも。今はホオズキを鳴らす子も見かけないが懐かしい句。

「ほおずき」は実がふっくらとした類からその名になり字は鬼灯が充てられたが、実の種を取り子供等が鳴らす、種を取るのも鳴らすのも結構難しい。紙風船も優しく扱わないとへこむがほおずきも同で少しの哀れと子の目を彷彿する句。



特選句

ほおずきの
どこか似てゐる紙風船

ちあき

日本の盆では鬼灯を霊を導く提灯に見立てて盆棚や墓に飾る。鬼は霊、灯は迎火で「鬼灯」と書く様になったとも。私の田舎のどの農家でも庭先に鬼灯が植えてあり盆の頃色づいていたのが父母共に思い出される懐かしい句。



特選句

鬼灯の
迎え火灯す小庭かな

えび

俳句へのいざない

第十九回 雨

近年は地球温暖化の為か豪雨による被災も多く哀しいが反面ダムの渇水で水道などの断水は無い。少し心を広げて俳句に詠む雨を眺めるとそれは四季を通じて趣があります。

先ずは春雨で木々や草木の芽吹きを小糠雨が誘い、夏の雨は弥生時代からの田畑の稲作を援ける、秋や冬の雨も乾いた大地に滲みて動植物の命を繋ぐ。こうして雨を見ると大方は地球に人類に恵が多いと思えこれも大自然の摂理かと思う。

雪月花は中国の白居易の詩の一節で、日本では月雪花を四季を愛でる詞に使うが、この中に雨が含まれないのが不思議でもある。雨月

雪花などにして貰えば嫌な日の雨も味わいがある様に思う。

また月雪花も土地によって景の趣が異なる。例えば月は桂浜、雪は富士山、花は吉野山などで、雨は芭蕉の句の

「五月雨を集めて早し最上川」や
京都の春雨で

「主様雨が、、春雨じゃ濡れて行こう」
など思う。

皆様も四季の雨、思い出の雨を一句詠んでは如何。

海棠に見えねど降りて雨しづく 石見



今月の秀逸句

鬼灯や亡き祖母偲ぶ赤さかな

ラク

鬼灯は盆の迎火に見立ててこの字が充てられたが如何にも昔の灯火の色を思う。火は燃料と温度に因り色が赤、橙、紫、などに変るが鬼灯の赤色には里や祖父母を思う懐かしさがありしみじみした句。

ほおずきの風船やぶれ悔しける
ほおずきを上手く鳴らせぬ子供かな

めい

ヒロ

ホオズキを鳴らすには先ず実の種を取り出すが、これが難しい、丁寧に少しづつ出さないと口が破ける。鳴らすには舌を上手く使うのがコツ。今では古里体験などで教えている。微笑ましい句。

食卓にホオズキ並ぶ朝餉かな

オノ

一般の鬼灯は毒性だがこれは食用ホオズキか、今では改良されてゴールデンベリーなどの名がある、マンゴの香りとナッツの味がする。初秋の食卓を彩る明るい句で清々しい。

鬼灯や色の移りに似る心

ゆーみん

ホオズキは人の頬の色に似るのでこの名があるが六月頃はガクも薄緑で清々しい、盆近くなると赤くなり昔の田舎の灯を連想する。古語では赤輝血(アカガチ)や八岐大蛇の目の色に例えられる。人の心も空や山花の色に誘われる、少しの艶冷とメルヘンを思う句。

祖母の手の鬼灯赤し盆近し

しま

俳句ではほおずき市は夏の季語で鬼灯は秋の季語で赤い鬼灯をおもう。祖母が家の何処かに飾るのか手にした鬼灯も赤い、盆の近いを思うしみじみした句。

鬼灯に癒されぬたる庭の隅

マコ

鬼灯に限らず花や実などその人の好みにより見て居ると心和む物がある。心と言う字は水に浮く小舟の様なもので何かと揺れ易い、鬼灯の色に故郷など思い癒されているのか、しみじみした句。

佳作

新盆のほおずき供ふ墓前かな	オノ	鬼灯を持って故郷の墓参り	バズ
ほおずきの市も中止のコロナかな	ヒロ	ほおずきを鳴らす唇リズムカル	れいこ
ほおずきの浴衣揃えて盆踊り	ラク	ほおずきを見てぬて思ふ祖母の庭	モモタス
ほおずきは袋の中に実をひそむ	くま	庭先のほおずき実り夏来る	みく
ほおずきの色染め初む花壇かな	ミニー	懐かしきほおずき市や浅草寺	のん
ほおずきを見るも懐かし里の夏	いるか	ほおずきや今年も多く実の生りき	チャコ
子のころに鬼灯風船作ったよ	コン	ほおずきの種取りけふの笛とせん	ひーちゃん
ほおずきよ両手に揉みて遊ぶかな	みつちゃん	ほおずきも似て赤々とミニトマト	あっちゃん
ほおずきは綺麗な色よ食べたいな	ニモ		

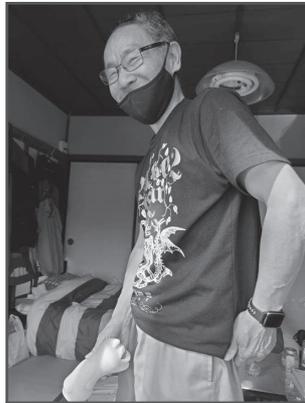
8月 Clean Birthday シラフを祝おう! クリーンバースデー

アディクト(依存症者)のクリーンタイム(断酒、断薬、断賭博の期間)を祝う
「クリーン・バースデー」対象者を、コメントを添えて紹介します。



サイ

3年目指して
がんばります!



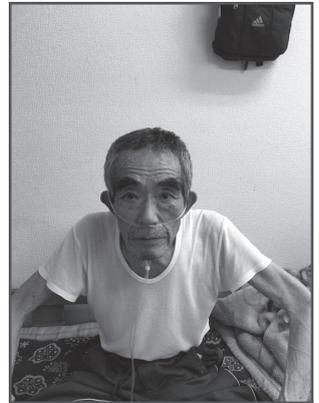
シゲ

6歳になりました。
有難う御座います。
この先も努力あるのみ!



セイちゃん

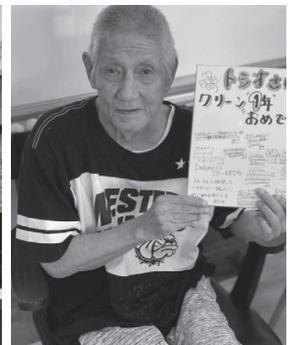
ようやく1年!



カメ

このままやめ続けます。
あとはタバコですね(笑)

「デイサービス百寿」では独自にクリーンバースデー



潮騒 JTC では4月から、入寮者を対象にクリーンバースデーの取り組みを進めることにしました。自助グループの経験を生かし、毎月の施設イベントとして定着させる予定でしたが、ご承知のように夏場に入って新型コロナウイルス感染が「第5波」の危機を迎えました。この影響で1カ所に集まって行うイベントは自粛を求められ、スタートしたばかりのクリーンバースデーもやむなく中止を余儀なくされました。

しかしながら、潮騒関連施設の高齢者介護「デイサービス百寿」では感染対策に万全を期して、独自に7月のバースデー者のマソオさん、トシオさんのクリーンバースデーを祝いました。以前は歩けたマソオさんですが、症状が悪化してしまい、今は自力歩行が困難です。話すこともままならない状態ですが、嬉しいことがあるとにっこりと笑う、その笑顔が仲間を

なごませてくれます。クリーンバースデーでも嬉しそうにしていました。一方のトシオさんは潮騒 JTC で施設生活をしていましたが、介護が必要な状態となったため軸足を「百寿」に移しました。歩けるし、会話もできるので、頑張って退寮するのが目標だそうです。

百寿代表のマコトさんは「正直なところ百寿入寮者は、クリーンバースデーが何なのかを理解していない仲間も多いです。潮騒から百寿に移動した仲間たちの中には趣旨を理解している人もいますが、病院などから直接、百寿に来た仲間は分かっていないようだ。マソオさんもアルコール依存症だけど、もう歩けないし話せないから、もちろんお酒も飲めない状態。彼には、1年前に百寿に来たから、“百寿に来て1年目だね”というお祝いだよ、と伝えました。どんな形であれ、本人の生きる希望に繋がれば…」と説明してくれました。

8月の行事

- 8月4日 水戸保護観察所スマーブ(中止)
 8月8日 7月クリーンバースデー
 (鹿嶋勤労文化会館)(中止)
 8月13日 盆供養・納骨式
 8月19日 潮騒俳句会

9月の行事予定

- 9月1日 水戸保護観察所 スマーブ
 9月2日 潮騒俳句会

感染予防対策を徹底して行います。
 状況に応じて中止や延期になる場合があります。

献金・献品を頂いた方

(6月15日現在)

- ・ 株式会社オカミ 様
- ・ 永作 栄康 様 ・ 野本 俊子 様
- ・ 高田 武義 様 ・ 中村 厚子 様
- ・ 草間 様

今月も献金・献品をいただきました。心から感謝申し上げます。本当にありがとうございました。

おかげさまで潮騒 JTC は、回復のためのプログラムを実践することができておりますことをご報告いたします。今後ともご支援くださいますよう、何卒よろしく願い申し上げます。

※その他匿名の皆様からも献品・献金をいただきました。ありがとうございました。

※発送作業簡略化のため、振込取扱票は全員の方に同封させていただいております。どうぞご理解のほどをお願いします。

ごまめの歯ざしり

朝、新聞を開いて真っ先に目を通すのは県版にある計報欄だ。ざっと目配りして、見つけた名前はないか、過去に香典を貰った親戚や知人・友人の名はないか、を確認する。次いで、亡くなった方たちの年齢を見て「う～ん100歳か、大往生だな」「今日はやけに若い人が多い」「50歳を過ぎているのに喪主が父親か、独身で通したのかな？」などと個別の死に思いをめぐらす。この時期に亡くなる人の中には「近親者で行った」の文字が散見される。セレモニーでの葬儀も蜜を避けて、小規模化が当たり前となって久しい▼コロナ禍の時代、僕がこれだけはいいなと思うのは、派手だった葬式がはばかられるようになったことだ。昔は農村集落の葬式は自宅葬が当たり前だった。これみよがしに花輪をずらりと並べ、当家を押しひけて葬式組合が主役となり、集落の長老が仕切った。女性陣は飯炊きに追われ、飲み食いのために数日間が費やされる格好だった。この大がかりな葬式は場所が自宅からセレモニーホールに移っても踏襲され、言い方は悪いかも知れないが、僕には個人を弔う儀式というよりは、当家の見栄の張り合いと自己満足、葬祭事業者を潤す役割にしか思えなかった▼しかし、時代は変わった。今や地域コミュニティは崩れ、地縁血縁の関係も弱くなった。消費資本主義の隆盛は生活スタイルや宗教観、死生観にも影響を及ぼしている。少子高齢化、核家族化、プライバシー意識の高まりで、こじんまりした家族葬が多くなったのが象徴的だ。若い人たちの感覚からすれば、昔のように葬式に大金を掛けるより、そのお金で旅行したり、趣味を充実させた方が合理的、との考えが強いようだ▼奇しくも潮騒の葬式は、故人を弔う意味では一般葬と変わりはないとしても、その内実は大きく異なる。習俗化して心が伴わない実利的な葬儀、形骸化した儀式としての葬儀ではなく、「仲間は家族だ！」という霊的な繋がりと「回復は死んでも続く」をモットーに、命と魂のリレーを体現する。それが潮騒独自の、仲間たちの語り(メッセージ)に重心を置く潮騒スタイルの「お別れ会」だ。あたかも日々のミーティングの延長のような、濃密な分かち合いの時間が流れる▼翻って日本人の平均寿命は男女ともに80歳を超える最高齢を更新し、世界の“長寿大国”となった。しかし、この国での「長生き」は本当に幸せなことなのか、との疑問が膨らむ。僕にとっても「いきいきと健康のまま長生きすること」が一番の課題だが、同時に「自分の死をどう受け入れるか」も重たさを増している。そのヒントが、僕よりも一回り近く年上の、栗原センター長の生き様だ。答えは「今を全力で、悔いなく充実して生きよ！結果、死も充実したものとなる」。センター長の背中は無言でそう教えてくれている。(勝)

潮騒通信 どっこい生きてます! 2021年8月号

Contents

P ② 巻頭言: MESSAGE from YUTAKA

逆境はやり方次第でプラスに転じる

P ③ 潮騒合葬墓に仲間の遺骨4柱を納骨 盆供養を通して仲間の死を考える

P ④ こんな僕でも「どっこい生きてます!」

統合失調症でも回復を信じて生きる ナルポー回復記

P ⑥ 受刑者からの手紙 P ⑧ しおさい俳壇 8月のお題「ほおずき」

P ⑩ 8月のクリーンバースデー / デイサービス百寿では独自にクリーンバースデー P ⑪ 行事予定 / 献金・献品 / ごまめの歯ざしり

■ 編集・発行: 特定非営利活動法人 潮騒 ジョブトレーニングセンター
 理事長: 栗原 豊

本 部: 〒314-0006 茨城県鹿嶋市宮津台 210 番地 10

事務局: 〒314-0031 茨城県鹿嶋市宮中 4 丁目 4-5

潮騒アディクションビレッジ会館 4 階

TEL:0299-77-9099 FAX:0299-77-9091

E-メール siosai2010@yahoo.co.jp

ホームページ <http://shiosaidarc.com/>





潮騒JTCでは今年も旧暦のお盆期間に、鹿嶋山地蔵院でこの1年間に亡くなった仲間たちの霊を供養する盂蘭盆会(うらぼんえ)法要を営みました。コロナ禍で参加人数は限られましたが、導師による本堂でのお盆供養に続き、隣接の潮騒JTC合葬墓において遺骨4柱の納骨法要も行いました。(3ページに記事)

